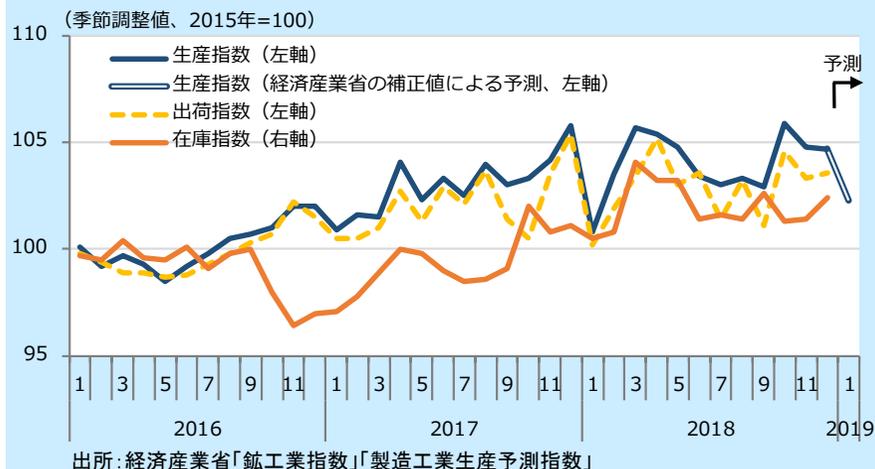


日本：鉱工業生産指数（2018年12月）

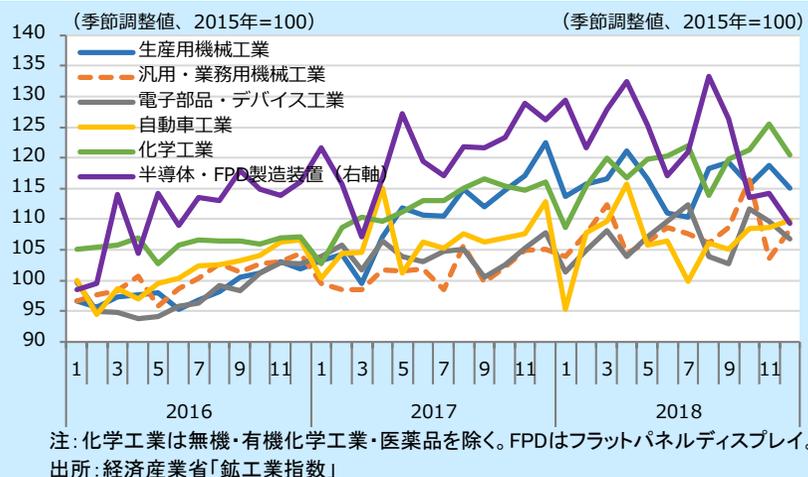
—外需の減速を背景に、生産は2ヶ月連続で減少—

MRI Daily Economic Points
February 1, 2019

鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



変動への寄与が大きい業種の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 12月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲0.1%と、小幅ながらも2ヶ月連続で低下。ただし、四半期ベースで見ると、10-12月期は前期比+2.0%と、自然災害の悪影響を受けてマイナス成長となった7-9月期（同▲1.4%）から、2四半期ぶりに上昇した。
- 業種別にみると、15業種のうち6業種が前月比で低下した。世界的な半導体関連需要の調整局面入りの影響を受け、半導体製造装置を含む生産用機械工業（同▲3.0%）や、電子部品・デバイス工業（同▲2.6%）が低下し、全体を押し下げた。
- 一方、汎用・業務用機械工業（同+4.5%）や、自動車工業（同+1.2%）は上昇した。ただし、18年以降を均してみると、これらの業種でも、中国を中心とする外需の減速を背景に、横ばい圏内での推移が続いている。
- 製造工業生産予測調査によると、19年1月の生産は、輸送機械工業などを中心に、前月比▲0.1%の低下が見込まれている。しかし、予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値によれば、同▲2.3%程度的大幅な低下となる。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、18年以降の輸出の伸び低下などを背景に、回復に一服感がみられる。先行きは、国内では雇用・所得環境の改善による内需の回復が見込まれるものの、輸出は米中経済の減速や半導体需要の調整などを背景に緩やかな減少が予想されることから、横ばい圏内での推移となろう。
- 生産の下振れリスクとしては、①米中貿易摩擦の激化、②中国経済の急減速のほか、③日米物品貿易協定（TAG）の交渉による対米輸出環境の悪化、が挙げられる。